

# YASKAWA 安川情報システム株式会社

福岡県北九州市八幡西区東王子町5番15号 〒806-0037  
TEL.093-622-6111 (代) FAX.093-622-6121

YASKAWA INFORMATION SYSTEMS Corporation  
5-15, Higashioji, Yahatanishi-ku, Kitakyushu, Fukuoka 806-0037, JAPAN  
PHONE. +81-93-622-6111 FAX. +81-93-622-6121

## 株主のみなさまへ 2017年3月期 vol.27

2016年9月 第2四半期

2016年3月21日~2016年9月20日

- 当第2四半期連結累計期間における情報サービス業界では、クラウドやビッグデータ、IoT/M2M (Internet of Things/Machine to Machine)、AI (人工知能) 等の技術のビジネス分野への利活用拡大が期待されております。
- 当社グループでは、それらのニーズを確実に捉えるべくパートナー企業様と協業し、グローバルな製品・機器のライフサイクルマネジメントを支援するIoTサービス、次世代ERPについてトータルなクラウドサービスの提供を開始いたしました。更に、ビッグデータや機械学習を活用した故障予知サービスの提供等、IoT分野での受注拡大に積極的に取り組んでおります。
- また、当社グループは2016年度から2018年度までの中期経営計画「Challenge for Excellence」を策定しました。そのスタートの年として、ビジネスモデルの変革とコスト構造改革の推進により強靱な企業体質を実現し、将来への成長基盤固めに努めております。
- 業績、今後の事業展開及び財務体質等を総合的に勘案し、誠に遺憾ですが中間配当金につきましては無配とさせていただきます。

(単位：百万円)

科 目	2016年第2四半期	2015年第2四半期	2016年3月期
受注高	7,337	7,124	11,600
売上高	6,589	6,437	12,275
営業損益	408	△68	△540
経常損益	406	△60	△533
親会社株主に帰属する四半期・当期純損益	220	△123	△1,271
1株当たり四半期・当期純損益：円	12.28	△6.84	△70.62
純資産額	576	1,722	278
総資産額	6,503	8,327	6,427
1株当たり純資産額：円	31.29	94.94	14.64
自己資本比率：%	8.7	20.5	4.1
自己資本四半期・当期純損益率(ROE)：%	53.5	△6.6	△124.3

(注) △は損失を示します。

## 目次

ごあいさつ	1	トピックス	8
過去5カ年の業績推移	2	四半期連結決算報告	9
事業別の概況	4	会社プロフィール	12
3事業のご紹介	5	株主情報	13

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、第2四半期は円高による原材料費や燃料費の下落、低い水準の燃料費の恩恵などプラス面もあるものの、一方で輸出企業利益の下振れや海外経済の減速などマイナス面もあり、依然として景気は足踏み状態が続いています。国内経済がそのような状況の中ではありますが、当社グループが属する情報サービス業界においては、クラウドやビッグデータ、IoTなどのビジネス分野の拡大が見込まれています。更に、AIや情報セキュリティをはじめとする新たな技術分野にも注目が集まっており、今後は戦略的なIT投資が増えてくるものと期待されています。

このような環境において、市場の変化、技術のめまぐるしい進化へ対応し、将来への成長基盤を固めていくため、当社グループは2016年度から2018年度までの中期経営計画「Challenge for Excellence」を策定しました。本年は、そのスタートの年として経営改革プロジェクト「Project Boggling」を始動し、ビジネスモデルの変革(事業の選択と集中)、組織人事の最適化、コスト構造改革などにより、強靱な企業体質へ変革し、長期的な成長が描けるように努めております。

具体的な取り組みとして、まず、事業の成長・拡大を下支えする人材を活躍させ、組織を活性化するための環境・仕組みを整備してきました。次に、お客様への精力的な提案営業の推進やIoTデザインセンターの開設によるお客様との接触機会の増加、共創の場の整備などの成果も具体的に現れ始めております。

また、業務基幹システムをSAPの最新版であるHANAで再構築することで、間接業務の削減と生産性の向上を図り、より効率的で客観性・透明性の高い業務プロセスの構築を目指すとともにリスク管理の徹底を行ってまいります。

更に、マーケティング戦略を明確化し、注力する事業・市場の情報の収集力・分析力の強化、広報活動の強



代表取締役社長 諸星 俊男

化により、タイムリーに当社の活動情報を市場へ発信できるよう取り組んでいます。これらの施策・改革を推し進め、営業力・技術力・生産性等あらゆる面でのエクセレントカンパニーを目指し、企業価値の向上に努めてまいります。

当第2四半期の業績は昨年度比で受注高103.0%、売上高102.3%に伸び、昨年の赤字原因であった健康保険大規模システムの採算が改善し、利益に貢献しました。更にコストダウン方策の実施等により、経常利益は計画を大幅に上回る事ができました。しかしながら、現状の財務体質及び今後の景気の不透明さを勘案し、株主のみなさまには大変申し訳ありませんが、中間配当金は引き続き無配とさせていただきます。

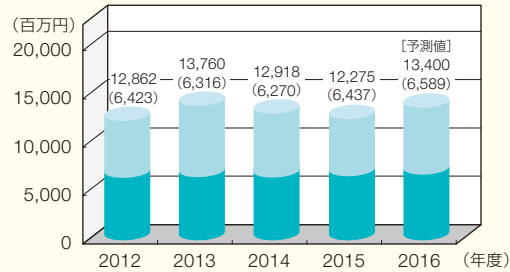
今後は、IoT/M2Mソリューション、システム開発事業、サービス事業等の注力分野での更なる受注拡大を図り、今年度計画及び中期経営計画を達成できるよう尽力してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 過去5力年の業績推移

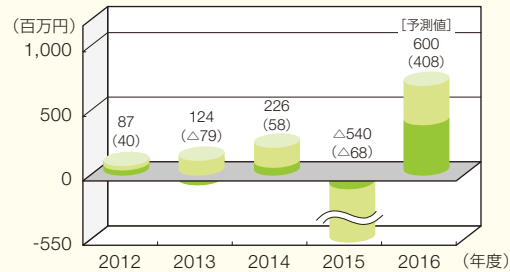
## 売上高

売上高  
(うち第2四半期累計)



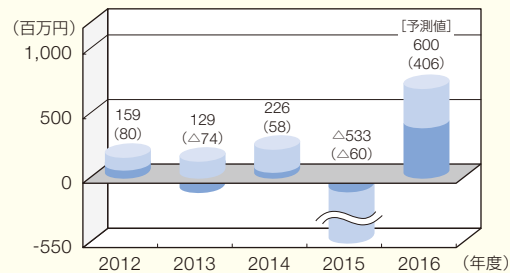
## 営業損益

営業損益  
(うち第2四半期累計)



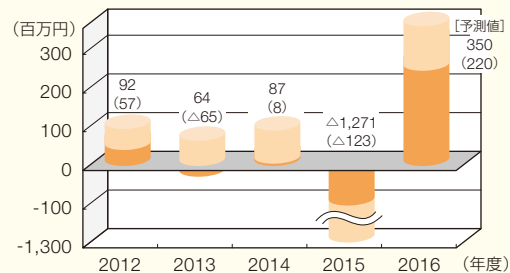
## 経常損益

経常損益  
(うち第2四半期累計)



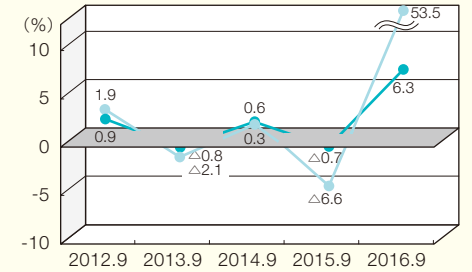
## 親会社株主に帰属する当期純損益

親会社株主に帰属する当期純損益  
(うち第2四半期累計)



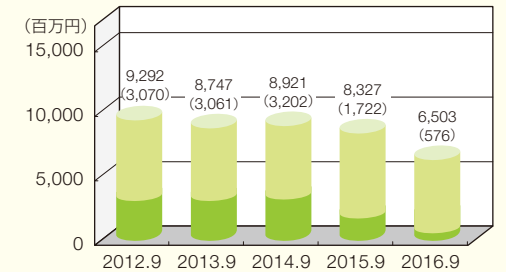
## 収益性

自己資本四半期純利益率  
総資本経常利益率



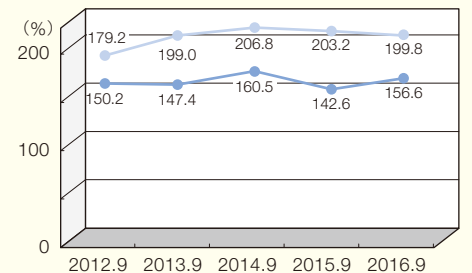
## 資産状況

総資産  
(うち純資産)



## 安定性 (流動比率・当座比率)

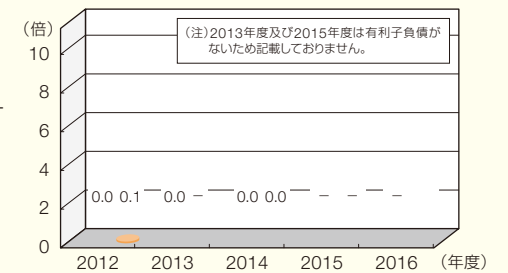
流動比率  
当座比率



## キャッシュ・フロー 対有利子負債比率 (倍)

有利子負債／営業活動によるキャッシュ・フロー

第2四半期 年度



## 事業別の概況

(単位：百万円)

事業	2016年9月第2四半期	2015年9月第2四半期	2016年3月期
ビジネス・ソリューション事業	2,499	2,363	4,835
組込制御ソリューション事業	2,365	2,676	5,090
医療・公益ソリューション事業	1,724	1,398	2,349
連結売上高合計	6,589	6,437	12,275

### ビジネス・ソリューション事業

当事業では、ERPソリューションや安川電機グループのIT投資は前年同期に比べ若干減少しましたが、移動体通信事業者向け開発は増加しました。

その結果、売上高は24億99百万円(対前年同四半期比5.7%増)となりました。

### 組込制御ソリューション事業

当事業では、倉庫物流や生産ライン管理等のFAシステム構築、IoT/M2Mソリューションや制御システム構築は前年同期に比べ増加しましたが、情報機器販売、メカトロ機器向けのソフト開発については減少しました。

その結果、売上高は23億65百万円(対前年同四半期比11.6%減)となりました。

### 医療・公益ソリューション事業

当事業では、医療機関向けソリューションサービスは前年同期に比べ減少しましたが、健康保険者向けシステム構築は大幅に増加し、インターネット・セキュリティ関連製品も増加しました。

その結果、売上高は17億24百万円(対前年同四半期比23.3%増)となりました。

## 3事業のご紹介

### ビジネス・ソリューション事業

基幹業務システム構築から運用・保守などのサービス提供まで、顧客の経営強化を支援する豊富な経験に基づくノウハウと確かな技術に裏打ちされたソリューションを提供し、安定的な成長と収益を確実に生み出せる事業に強化します。

#### 注力分野

##### ■ 基幹業務系システムの業務コンサルティング

- ・蓄積したノウハウを基にした次世代ICTによるソリューションの創出

##### ■ SAP社ERPの導入・業務コンサルティングと周辺システムとのインタフェースを含めたアドオン開発

- ・ERP関連ソリューションの拡充(移行・業務運用ソリューションなど)
- ・S/4 HANAへの取り組み強化

##### ■ 大規模基幹システム(販売管理、生産管理、購買管理、顧客管理など)の構築、アウトソーシングサービス(システムの設計・構築から運用・保守)

- ・新技術への取り組み強化による対応領域の拡大

#### 製品紹介

##### ■ ERP業務運用ソリューション

##### 監視 PUSH型によるアラート通知

納期遅延や伝票滞留を関係者にメールで自動通知

##### 分析 トレンド分析・要因の見える化

遅延伝票数をロケーション(会社、部署)や時系列推移で分析し、要因を特定

##### 是正 業務運用の改善

実績データをもとに関係者への通達、担当者の指導



##### 改善サイクルの実現

- 運用保守工数の削減
- 更なる改善の実施



# 3事業のご紹介

## 組込制御ソリューション事業

製造業で培ったノウハウを集約し、市場や顧客の高度な要求にこたえるだけでなく、お客様の製品・サービスの価値向上、事業の効率化を実現させる様々な技術革新をリードする組込制御ソリューションを提供し、当社の特長ある事業として高い成長性と収益を目指します。

### 注力分野

#### IoT分野向けソリューション・サービス

- ・スマートファクトリー・スマートシティ向けソリューションの拡充
- ・ワンストップソリューションを支えるMMLink製品展開
- ・FA分野で培ったエンジニアリング力を活かした高付加価値ソリューションの創出 (エッジコンピューティング)

#### 医療機器 (レントゲン機器、人工透析器など) の制御用ソフトウェアやアプリケーション開発

- ・ソフトライセンスビジネスの強化
- ・保守・サービス分野の強化・開拓

### 製品紹介

#### スマートファクトリー向けソリューション「MMPredict」 (IoT・ビッグデータ・機械学習を融合した故障予知サービス)

- ・AI技術 (Random Forest、Deep Learning など) による分析により、装置が故障する前に予兆を発見。
- ・複数のセンサの相関から、故障予知の根拠となるセンサデータの寄与順位を見える化。
- ・アラーム通知により、ダウンタイムゼロを目指す取り組みを支援。



#### スマートシティ向けソリューション「MMGuide Water」 (浄水場向け薬剤注入ガイダンスソリューション)

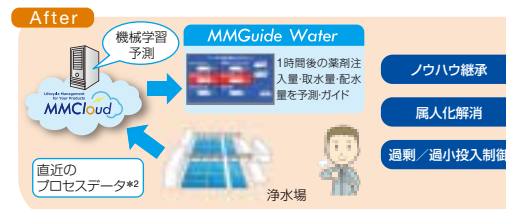
- ・AI技術 (Random Forest)、IoTクラウド技術と蓄積された水処理監視ICT技術を融合したソリューション。
- ・水質と薬剤注入量の関係を自動でモデル化。薬剤注入量や取水量、配水量を予測し、ガイダンス。
- ・浄水場の運用保守効率化により、熟練者不足の課題を解決。

浄水場における配水量・取水量や、水質確保に使用する薬剤注入量を予測し、ガイドします。



過去のプロセスデータや運用実績を機械学習し、浄水場における水質と薬剤注入量の関係を自動でモデル化

熟練者のように薬剤注入量や取水量、配水量を予測/ガイド



- \*1: ある浄水場における過去1年分のプロセスデータ(1時間周期)を機械学習し、翌年のある1か月の注入量を予測。その月の実績注入量に対する予測精度を以下の式で算定。  
予測精度(%)=100 - |実績値 - 予測値| / 実績値 × 100
- \*2: 浄水場に設置されている各種センサや運転設定等の情報の総称。

## 医療・公益ソリューション事業

インターネットサーバ (NetSHAKER シリーズ) 関連商品等のハードウェアの提供だけでなく、今後拡大が予想されるIoT市場に対してニーズを先取りし、蓄積したノウハウをシステム構築やサービス等に融合させたソリューションの創出により、付加価値の高い事業展開を進めていきます。

### 注力分野

#### 小学校～大学の教育現場や教育機関向けソリューション

- ・文教分野向けネットワーク構築・運用・保守サービスの拡充

#### 社会環境の変化等に合わせたソリューション

- ・IoT時代に対応するインターネット・セキュリティに関する各種システムの構築・運用・保守サービスの創出

## IoTデザインセンターを開設

当社は、IoTの活用をお考えのお客様と一緒に価値創出につながる最適なIoTサービスの実現に向けて、検討・実証を行う施設「IoTデザインセンター」を開設しました。

「IoTデザインセンター」は本社1階の入り口付近に設置しています。ここではパネルやスクリーンを用いた従来の展示に加え、ヘッドマウントディスプレイ(HMD)を用いて、Virtual Reality (VR: 仮想現実)のデモ環境を整備しています。

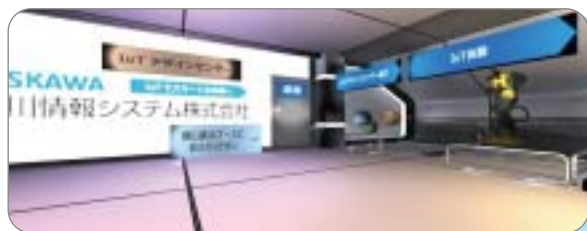
今回開設した「IoTデザインセンター」は、当社が保有するIoTコンサルティング、システム技術及びAI(人工知能)技術のノウハウを、IoTの活用によって価値を創出したいと考えるお客様に提供するための場所です。

一言にIoTといっても、何のデータを使ってどのようなことができるか、具体的な活用をイメージできるお客様はまだ多くなく、サービスの検討・実現に当たっての課題は多岐にわたります。そこで「IoTデザインセンター」では、まずVRによるIoTを体感いただくことで、IoT活用イメージを刺激します。次に、IoTビジネス検討支援として過去の提案・開発実績で培ったIoTノウハウから、お客様に最適なIoTビジ

ネスをご提案いたします。そして、当社のエンジニアリング系のデータ分析スペシャリストが対応し、データ収集・可視化・分析までのテスト運用を当社のIoT基盤(MMCloud)と分析プラットフォーム(アルゴリズム、データ前処理)を活用し、お客様のIoTサービスのPoC(Proof of Concept: 概念実証)を短期に実現いたします。



IoTデザインセンターの外観と内部



VR画面例



HMDIによるVR体験

(四半期連結貸借対照表)

## ■ 四半期連結貸借対照表(平成28年9月20日現在)

(単位: 百万円)

資産の部	金額
流動資産	5,166
現金及び預金	508
受取手形及び売掛金	3,541
商品及び製品	60
仕掛品	629
原材料及び貯蔵品	16
その他	409
貸倒引当金	△0
固定資産	1,337
有形固定資産	704
無形固定資産	352
投資その他の資産	280
資産合計	6,503

(単位: 百万円)

負債の部	金額
流動負債	2,586
支払手形及び買掛金	614
未払金	459
未払費用	1,133
未払法人税等	40
役員賞与引当金	3
その他	333
固定負債	3,340
退職給付に係る負債	3,071
役員退職慰労引当金	38
その他	230
負債合計	5,927
純資産の部	金額
株主資本	1,928
資本金	664
資本剰余金	318
利益剰余金	946
自己株式	△0
その他の包括利益累計額	△1,365
その他有価証券評価差額金	12
退職給付に係る調整累計額	△1,377
非支配株主持分	13
純資産合計	576
負債純資産合計	6,503

# 四半期連結決算報告

(四半期連結損益計算書・四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

## ■ 四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間(自平成28年3月21日 至平成28年9月20日)

(単位：百万円)		(単位：百万円)	
	金額		金額
売上高	6,589	特別損失	
売上原価	4,863	固定資産除却損	0
売上総利益	1,725	減損損失	4
販売費及び一般管理費	1,316	ゴルフ会員権評価損	0
営業利益	408	事業構造改善費用	89
営業外収益		特別損失合計	93
受取利息	0	税金等調整前四半期純利益	313
受取配当金	0	法人税、住民税及び事業税	21
その他	0	過年度法人税等	25
営業外収益合計	1	法人税等調整額	44
営業外費用		法人税等合計	92
支払利息	0	四半期純利益	221
売上債権売却損	1	非支配株主に帰属する四半期純利益	0
為替差損	0	親会社株主に帰属する四半期純利益	220
その他	0		
営業外費用合計	2		
経常利益	406		

## ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(自平成28年3月21日 至平成28年9月20日)

(単位：百万円)		(単位：百万円)	
	金額		金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	313	有形固定資産の取得による支出	△45
減価償却費	78	無形固定資産の取得による支出	△86
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	その他	△6
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△3	投資活動によるキャッシュ・フロー	△138
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△214	財務活動によるキャッシュ・フロー	
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2	非支配株主への配当金の支払額	△2
受取利息及び受取配当金	△0	財務活動によるキャッシュ・フロー	△2
支払利息	0	現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△552
固定資産除却損	0	現金及び現金同等物の期首残高	1,061
減損損失	4	現金及び現金同等物の四半期末残高	508
ゴルフ会員権評価損	0		
売上債権の増減額(△は増加)	△634		
たな卸資産の増減額(△は増加)	△85		
仕入債務の増減額(△は減少)	217		
未払金の増減額(△は減少)	△161		
未払費用の増減額(△は減少)	109		
長期未払金の増減額(△は減少)	△26		
その他	24		
小計	△377		
利息及び配当金の受取額	0		
利息の支払額	△0		
法人税等の支払額	△63		
法人税等の還付額	28		
営業活動によるキャッシュ・フロー	△412		

# 会社プロフィール

## 会社概要 (2016年9月20日現在)

商号 : 安川情報システム株式会社  
 本社所在地 : 福岡県北九州市八幡西区  
 東王子町5番15号 〒806-0037  
 設立年月日 : 1978年2月1日  
 資本金 : 664百万円  
 従業員数 : 477名  
 主な事業 : ビジネス・ソリューション事業  
 組込制御ソリューション事業  
 医療・公益ソリューション事業  
 連結子会社 : 株式会社 安川情報九州  
 安川情報エンベデッド株式会社

## 役員 (2016年9月20日現在)

代表取締役社長	諸星俊男
取締役 執行役員	久野弘道
社外取締役	中田直樹
社外取締役	南善勝
社外取締役	野口雄志
社外監査役(常勤)	下園直登
社外監査役	平山雅之
社外監査役	大串秀文
常務執行役員	城戸重信
常務執行役員	四條満
常務執行役員	遠藤直人
常務執行役員	石田聡子
執行役員	三輪雅志
執行役員	玉井裕治
執行役員	清水伸悟
執行役員	大久保誠二

## 当社のホームページ



## 当社のIRページ



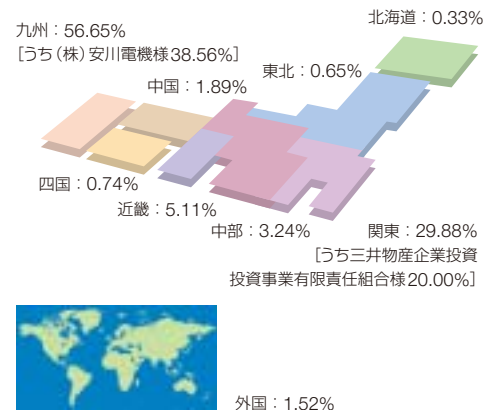
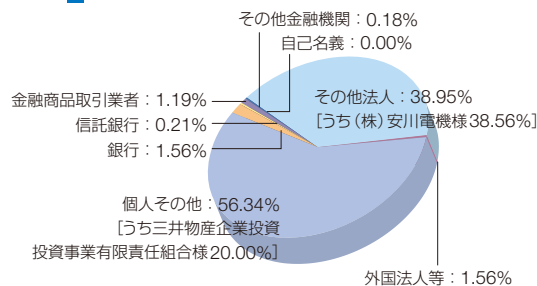
<http://www.ysknet.co.jp>

# 株主情報

## 株式の状況 (2016年9月20日現在)

株式の総数 : 64,000,000株  
 発行済株式の総数 : 18,000,000株  
 株主数 : 4,727名

## 株式数の分布状況 (2016年9月20日現在)



## 株主メモ

事業年度	3月21日～翌年3月20日
期末配当金受領株主 確定日	3月20日
中間配当金受領株主 確定日	9月20日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 0120-232-711 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.ysknet.co.jp">http://www.ysknet.co.jp</a> (ただし、電子公告によることが出来ない 事故、その他のやむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に公告いたします。)

## <お知らせ>

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。